

109  $^{67}\text{Ga}$ -citrate シンチスキャンニング

日医大 放科

志田幸雄、青海川秀敏、三谷原重雄、奥山 厚、細井盛一、疋田史典、西川 博、中沢英治、本多一義、椎葉 忍、渡部英之、隈崎達夫、山岸嘉彦、清水 浩、齋藤達雄

我々は第 / 5 回の本学会総会において、772 例の  $^{67}\text{Ga}$ -citrate シンチスキャンニングについて報告した。今回、当科において最初にこれが施行された昭和45年3月より昭和53年 / 月までに2,000回の  $^{67}\text{Ga}$ -citrate シンチスキャンニングを経験するに至ったので主に以下の項目につき検討し報告する。

- (1) 生検、手術あるいは剖検にて病巣組織型の判明した悪性腫瘍につき、組織別のシンチグラム陽性率
- (2) 悪性腫瘍の臓器別のシンチグラム陽性率
- (3) 悪性腫瘍以外の疾患におけるシンチグラム陽性率

110 悪性リンパ腫の管理における  $^{67}\text{Ga}$ -スキャンの評価

横浜市大 放科

川島博之、野沢武夫、氏家盛通、朝倉浩一  
小野 慈、松井謙吾

目的：悪性リンパ腫は  $^{67}\text{Ga}$  の集積の強い疾患の一つとしてよく知られており、初診時の拡がりを診断する方法の一つとして、staging にも利用されている。近年治療成績の向上を見る一方、約半数において再発を認めている現状である。我々は悪性リンパ腫の放射線治療後における病態の観察手段として Ga-67 を広く利用しているが、本疾患の経過観察中における臨床症状との対応の観点から経時的に行ったスキャンの再検討を行った。

方法：昭和50年1月より、54年6月の間に当科で診療した悪性リンパ腫のうち、2回以上スキャンを施行した41症例を検討の対象とした。Hodgkin's lymphoma 7例、Non-Hodgkin's lymphoma 34例であり、stage 分類ではI期6例、II期17例、III期11例、IV期7例であった。スキャンは延べ128回行ない、1人平均3回、約半年に1回の割合で行なわれた。 $^{67}\text{Ga}$ -citrate 2mCi 静注後、2~3日後に全身スキャナー (BSW-IB-520) で全身像を撮影し、必要に応じて局所の像を追加撮影した。スキャンの読影は陽性、陰性ともに臨床検査結果、理学所見、生検等を参照しながら行った。

結果：1) 初回のスキャン陽性率は41例中29例、71%であった。  
2) 治療後、陽性より陰性に転じた症例は29例中14例であった。  
3) 生存している症例20例のうち最後のscanが陽性であった症例は1例のみであった。  
4) 死亡した21例のうち、最後のスキャンが陰性であった例は4例であった。

考察：結果で見られる如く、照射治療後scan所見が陰性に転化した症例は約半数であり、これらの予後は比較的良好で、生存症例のほとんどは、最後のscanは陰性であった。しかしながら、死亡例中、最後のscanが陰性であった4例を観察した。治療による修飾、骨ずい、ずい膜への浸潤などが理由として考えられた。